

令和５年度 第５回 流山市福祉施策審議会会議録

- 1 日時 令和５年１０月１０日（火）
午後２時００分～４時４０分
- 2 場所 ケアセンター ４階第１・第２研修室
- 3 出席委員
鎌田会長 中職務代理者 石幡委員 小野寺委員 石渡委員 平井委員
濱田委員 牧委員 琉委員 釜塚委員 山田委員 南委員 佐藤委員
- 4 欠席委員
中久木委員 肥田委員 鈴木委員 小熊委員
- 5 出席職員
伊原健康福祉部長 宮澤健康福祉部次長兼障害者支援課長
池田社会福祉課長 木村高齢者支援課長 橋本介護支援課長
平尾児童発達支援センター所長 渡邊健康増進課長
高齢者支援課
時田課長補佐 武林課長補佐 影山高齢者介護予防係長 石渡主事
向後主事
介護支援課
竹之内課長補佐 育野課長補佐 三宅地域支援係長 三好介護認定係長
高橋介護給付係長
障害者支援課
白井課長補佐 坂本課長補佐 増島障害福祉係長 上山障害者給付係長
健康増進課
大屋成人保健係長
事務局（社会福祉課健康福祉政策室）
田村健康福祉政策室長 張替主任主査 加藤主査保健師 菊池主事
- 6 傍聴者
市民２名
その他の参加者 手話通訳者２名

(司会)

本日はお忙しい中、令和5年度第5回流山市福祉施策審議会に御出席頂きましてありがとうございます。

議事の進行につきましては、流山市附属機関に関する条例第5条第1項の規定に基づき、会長が会議の議長になることになっております。鎌田会長、よろしくお願いいたします。

(鎌田会長)

本日もお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。これまで4回にわたって審議を重ねてきましたが、本日が最終回となります。本日は最後に出来上がった答申書を読み上げ、市長へ手渡す予定です。皆様が納得できる答申を市長へお渡ししたいと思っておりますので、最後まで皆様のご意見をお願いします。

なお、本日手話通訳の方が入っているため、ご発言ははっきり、わかりやすくお願いいたします。

会議に入る前に、委員の皆様には報告いたします。本日の出席委員は13名です。委員の半数以上の出席がありますので、附属機関に関する条例第5条第2項の規定に基づきまして、会議は成立していることを御報告します。

なお、市民参加条例等の規定により、審議会は公開となっております。

本日は2名の方から、本審議会を傍聴したい旨の申し出がありましたので、会議の傍聴についてご了承願います。

それでは、傍聴者の入室をお願いします。

まず事務局から本日の議題について説明願います。

(司会)

本日は議案4件がございます。

議題1「第9期流山市高齢者支援計画の策定について」

議題2「第7期流山市障害福祉計画及び第3期流山市障害児福祉計画の策定について」

議題3「(仮称)流山市重層的支援体制整備事業実施計画の策定について」

議題4「流山市成年後見制度利用促進基本計画の策定について」

以上でございます。

また、議事録作成のため、録音させて頂くことをご了解願います。

(鎌田会長)

本日の議事に入る前に申し上げます。

本日は、答申書の作成に向けた議論の後、準備時間として休憩の時間を設けたいと思っておりますので、予めご了承ください。

それでは、まず議題1について説明願います。

議題 1

【説明】

（木村高齢者支援課長）

第9期流山市高齢者支援計画（案）（資料番号1－1）について

（鎌田会長）

それでは、前回に引き続き答申書についての議論を行いたいと思いますが、まず資料について何かご質問はありますか。

（山田委員）

取組みの方向性について追加になったところですが、グランドゴルフと書いてありますが、グラウンドゴルフが正しいのではないかと思います。

（木村高齢者支援課長）

修正いたします。

（鎌田会長）

では改めて、事務局から答申書の案について説明をお願いします。

（田村健康福祉政策室長）

（高齢者支援計画 答申書（案） 読み上げ）

以上が答申案になります。御審議のほど、宜しくお願い致します。

（鎌田会長）

ただいまの答申案について、質疑や意見等ありましたらお願い致します。

（山田委員）

2の「高齢化率は伸びない」というのは、他市町村と比べての説明だったと思います。また、後期高齢者についてとありますが、前期高齢者はどうなってしまったのか。後期高齢者という表現にする必要はなく、下から2行目で高齢者となっているため、統一した方が良いのではないかと思います。

（釜塚委員）

前期高齢者はあまり増えないが、後期高齢者は増えるという説明だったと思います。

流山市の場合は、若い方が多いので、高齢者は見えづらいのですが、地域活動に出てくる方は80歳以上ということで、自治会の方も悩まれています。

60～70代までは働いており、働かなくなってから地域に入るというようですが、その段階では体力的にも問題があり、活発な動きができないということが多いと思います。

「必要なサービスが高齢者に行き渡るような体制を構築してください」とありますが、必要なサービスというのはどういったものなのか、もう少し具体的なものが1つや2つ入るとわかりやすいと思います。

(石幡委員)

2の部分ですが、「流山市は他市と比べ若い年代の流入があり、高齢化率は伸びないものの、しかし、後期高齢者人口の増加が見込まれる」とするほうが良いのではないかと思います。

年間700人から1,000人近くが増加するということですから、このように変えるとインパクトが大きくなると思います。

(釜塚委員)

先ほどに続き、サービスというのは具体的にはどういうことでしょうか。

(田村健康福祉政策室長)

主に介護サービスが代表的なものだと思いますので、「介護等の必要なサービス」とするのはいかがでしょうか。

(釜塚委員)

介護だけでなく、健康でいるために食事のことや体操などの具体的なことはありますか。例えばフレイルに力を入れるなどはいかがでしょう。

(鎌田会長)

答申書案なので、細かいものは入れなくてもよいのではと思います。

(南委員)

重層的支援体制整備事業の対象者として、老々介護や単身世帯、家庭内暴力等がありましたので、そういったところを含むサービスとして捉えれば良いのではないかと思います。

(山田委員)

基本目標と施策目標が計画にあり、これについてサポートや尽力があるように答申書にも書かれているのであれば、良いと思います。

これとは別ですが、1の(3)では高齢者虐待や消費者被害というのが出てきましたが、議論があったか記憶にありませんので確認したいです。

また、地域共生社会に力を入れるというのはわかるのですが、1の冒頭に書いてあるため、1の(2)の「地域共生社会の実現を支援するとともに」の部分を取ってしまっても良いのではと思います。

(田村健康福祉政策室長)

1の(2)のところ、地域共生社会についてはおっしゃる通りですので、カットしてよいかと思います。

高齢者虐待については、審議会では議論になっていなかったかと記憶していますが、計画でも重要なものという位置づけがなされているため記載しました。

(山田委員)

議論になかったというと、説明は十分にあったのでしょうか。

(鎌田会長)

これについては私の方からお話しします。

高齢者支援計画と障害者福祉計画及び障害児福祉計画は分野の総合的な計画であり、成年後見制度利用促進基本計画や重層的支援体制整備事業実施計画は個別の政策についての計画となっています。

虐待や消費者被害のなど問題が高齢者や障害者に広がっているという事実もあって、個別な計画を作るということになっていると思いますが、この観点が高齢者支援計画にも入れたほうが良いかと思ったため記載しました。

1の(2)の「地域共生社会の実現を支援するとともに」はカットし、1の(3)は記載させていただきます。

最初の議論について、2に「高齢化率は伸びないものの」とありますが、高齢化率が伸びないということはないと思うのですが。

(田村健康福祉政策室長)

「他市と比べ」という言葉が入っておりますので、ここと繋がれば「他市と比べ伸びない」となるため良いのではないかと思います。

(鎌田会長)

「介護等の必要なサービス」という変更についてはいかがでしょうか。

(琉委員)

この答申は、事務局の方で苦労してまとめたものだと思います。答申を細かく指摘していくと、まとまらないと思います。

答申なので、おおざっぱなまとめの形になります。具体的なものは計画に書いてあって、答申書を具体的にしてしまうと、1ページに収まらず、誰も読まなくなってしまいます。

ここだけはどうしても、という点があればぜひ変更するべきだと思いますが、あちこち変えると直しようがないと思うので、協力していければよいと思います。

(池田社会福祉課長)

提案ですが、1の(2)「支援を必要とする高齢者が住み慣れた地域で生活していくことができるよう」の後がカットされるということですが、さらにそのあとも「円滑に受けることができるよう」とあり、「できるよう」という表現が続いてしまうため、「住み慣れた地域で生活していくことができるために」と修正するのはいかがでしょうか。

(田村健康福祉政策室長)

「高齢者が住み慣れた地域で生活し、必要なサービスを円滑に受けることができるよう」としてはいかがでしょうか。

(全員)

問題ないと思います。

(鎌田会長)

こちらの表現を改めて、1の(2)は「支援を必要とする高齢者が住み慣れた地域で生活し、必要なサービスを円滑に受けることができるよう、地域包括支援センターと他分野の相談窓口との連携強化を図ってください。」とします。

(石渡委員)

地域で生活していくために、必要なサービスを円滑に…」にしたほうがすっきりするのではないかと思います。

また、2の最後の2行目に、「必要なサービス」という表現がたくさんあるため、「介護サービス等」とするのはいかがでしょうか。

(鎌田会長)

釜塚委員の、具体的な表現にするというご意見を踏まえて変更したところですが、高齢者の方へのサービスは必ずしも介護サービスに限ったものではないため、必要なサービスという表現にしていたのですがいかがでしょうか。

(石渡委員)

ではそれでよいと思います。

(鎌田会長)

この辺で議題1については審議を終了させて頂いてよろしいでしょうか。

(田村健康福祉政策室長)

答申書の御審議ありがとうございました。

それでは私から、確認のため答申書を読み上げさせていただきます。

<答申書を読み上げ>

(鎌田会長)

ただ今事務局が読み上げた内容でよろしいでしょうか。

それでは、この内容で市長に答申することといたしますので、事務局は答申の準備をお願いします。

次に、議題2について説明願います。

議題2

【説明】

(宮澤障害者支援課長)

第7期流山市障害福祉計画・第3期流山市障害児福祉計画(案)

(資料番号2-1)について

(鎌田会長)

それでは、前回に引き続き答申書についての議論を行いたと思いますが、その前に事務局からご説明があった件についてご質問等がありますか。

(質問なし)

(鎌田会長)

それでは、改めて、答申案について事務局から説明をお願いします。

(田村健康福祉政策室長)

(障害福祉計画・障害児福祉計画 答申書(案)読み上げ)

以上です。御審議のほど、宜しくお願い致します。

(鎌田会長)

お配りしている答申案について、質疑や意見等ありましたらお願い致します。

(小野寺委員)

2について、例えば、聴覚障害者が高齢者施設に入ったとき、コミュニケーションがスムーズではなく孤独に陥りやすい現状があると思います。他の障害者の方も同じ状況があると思います。

来年度から、合理的な配慮の義務がスタートしますので、最後の「整備に努めてください」という文末の言い方が弱いと感じますので、1のように「支援体制を強化してください」という表現に変えていただきたいと思います。

(全員)

よろしいと思います。

(釜塚委員)

3について「仕組みづくりを支援してください」ではなく、「関係を築いてください」という表現の方が良いのではと思います。

(石幡委員)

1, 2で「強化してください」という表現を使用したため、3も「仕組みづくりを強化してください」と揃えると統一されてすっきりするのではないかと思います。

(小野寺委員)

3は「強化してください」という言い方に変えていただきたいと思います。障害者の実態を理解していただくために、例えば小中学校で手話教室を開いて、その小中学生にいい志を持って、思いやりを持って大人になっていただくためには、早くから障害者への理解を深めることが大切だと思います。

自治会にも出前講座がありますが、仲間同士で理解を深めるためにも、文末に「強化」という言葉を入れる方が良いと思います。

(南委員)

強化だと表現が強く、皆さんで助け合える関係を築けるような仕組みづくりをみんなで支えるという考え方が大事だと思うので、「支援してください」という表現が良いのではと思います。

(鎌田会長)

市長にお願いするものとなりますので、仕組みを作るから市役所も支援して

くださいという主旨になるかと思います。

（釜塚委員）

1と2も「強化してください」となっていて、ここも大事なところですので「強化してください」の方が良いと思います。

（南委員）

関係づくりは強化してできるものではないと思います。温かい気持ちで、みんなで輪になって支えていくものだと思います。

（中委員）

今の意見ですが、市に対する答申書なので、行政に対しては「強化してください」が良いと思います。ただ、行政から市民に対しては「みんなで助け合って支援」という表現が良いと思います。

（鎌田会長）

「助け合える関係を築ける仕組みづくりを強化してください」というようにしたいかと思いますがいかがでしょうか。

（全員）

異議なし。

（鎌田会長）

意見等もほぼ出尽くしたようですので、この辺で議題2については審議を終了させて頂いてよろしいでしょうか。

（田村健康福祉政策室長）

答申書の御審議ありがとうございました。

それでは私から、確認のため答申書を読み上げさせていただきます。

＜答申書を読み上げ＞

（鎌田会長）

ただ今事務局が読み上げた内容でよろしいでしょうか。

それでは、この内容で市長に答申することといたしますので、事務局は答申の準備をお願いします。

次に、議題3についてです。計画に関する追加資料はありませんので、答申案の議論を行いたいと思います。事務局から説明をお願いします。

議題3

（田村健康福祉政策室長）

（（仮称）流山市重層的支援体制整備事業実施計画 答申書（案）読み上げ）

以上です。御審議のほど、宜しくお願い致します。

（鎌田会長）

ただいまの答申案について、質疑や意見等ありましたらお願い致します。

（釜塚委員）

「重層的」という言葉が非常に重いのですが、すべてひっくるめてということですね。ありとあらゆることを全部抱えていくのか、それとも重なり合っていくということであれば、どの部分が重なっていくのでしょうか。丸ごとといったような表現にした方が皆さん分かりやすく良いかと思います。

（鎌田会長）

「重層的」というのは国で決めた名称であるので、その解釈も含めて、2では名称をわかりやすくというように記載しています。「重層的」という言葉を市ではどのように解釈をしているのか、事務局より説明をいただきたいと思います。

（田村健康福祉政策室長）

「重層的」という表現は法律上の名称で、「重層的支援体制整備事業」という事業です。様々な機関が存在している中、のりしろを広げ、縦割りを排して複数の相談機関が重なり合って支援に当たっていくというイメージから、「重層的」という言葉が使用されていると理解しています。

（釜塚委員）

賃貸住宅に入りたいけど75歳以上だからダメなど、制約がありなかなか住みづらいという方もいらっしゃいます。複雑な生活をしながら、しょうがないと言いながら生活していらっしゃいます。

70歳以上になり、自分が一人になったとき、住宅問題が一番心配です。

断らない、安心住宅センターのような、安心して住めるような重層的支援体制をいずれ作っていただければと思います。

居住支援法人という仕組みがあるため、これを利用し、市で具体的にやっていけばよいのではないかと思います。

（鎌田会長）

住宅問題などを解決してほしいということだと思います。他にご意見はありますか。

（琉委員）

答申の中身についてではなくお願いなのですが、1の（2）の「職員の意識改革」という点に関してです。

審議会資料としてアンケートをまとめたものをいただきましたが、高齢者支援計画関連のアンケートについて、答えていない人が半分いる状況です。答えていない人が答えていただけていたら、結果が随分違ったと思います。

その理由について、事業者が忙しいから・アンケートが細かいからといった回答だったと思いますが、ここまでわかっているのに毎年繰り返し同じことをやっているようでは、アンケートを行う職員が意識改革をしていないのではな

いかと考えてしまいます。

アンケートの質問内容を変えると比較ができないということもわかりますが、答える人が少ないということを知っているのであれば、答えてもらえるような形で工夫をすべきではないかと思います。

アンケートの取り方など、意識改革を併せて行っていただけたらと思います。
(伊原健康福祉部長)

仰る通りだと思います。回答がなかった理由を並べて仕方なかったという話になってはいけないと思いますので、次は是正して回答を得られる形を模索すべきだと思います。今後反映させていただきたいと思います。

(鎌田会長)

答申書についてご説明します。1に書いてあるように、複数の課題を抱え、支援を必要とする方がいる中で、その専門窓口がないという状況であり、国から支援体制の制度化が促されていることから、来年度から流山市でも開始するものです。

事業実施に当たって、専門職が集まった新しい窓口を設定してほしいという気持ちがあったため、(1)に記載しました。既存の窓口との連携についても(1)に記載しています。

また、「相談に乗る」ということが一番大切なものなので、職員のスキルアップ・意識改革・研修がとても大切ということで(2)で強く書いています。

高齢者計画などは分野の総合的な計画であり、皆様からも振り返りについてのご意見がありましたが、これらは3年ごとに振り返るというスキームがあります。しかし、この計画は新規のため、進捗状況の把握や点検等をしていただきたいということで(3)に書いています。

2については、この制度に期待しているということと、名称がわかりづらいため、市民に理解していただけるようにしていただきたいということを記載しています。以上が答申書の趣旨となります。

(石渡委員)

相談窓口がないということでしたが、既存でも相談窓口はいっぱいあると思います。教育関係や福祉関係、警察や関係機関でもあります。

この連携がうまく機能していないということで、20年・30年も前から一本化しようという話があったのですが、これが法律化されたからと言ってうまくいくかは話が別だと思います。一生懸命やっていただいて、一本化できるようにしていただければと思います。

(鎌田会長)

意見等もほぼ出尽くしたようですので、この辺で議題3については審議を終了したいと思います。事務局から、答申の確認をお願いします。

(田村健康福祉政策室長)

答申書の御審議ありがとうございました。

それでは私から、確認のため答申書を読み上げさせていただきます。

<答申書を読み上げ>

(鎌田会長)

この内容で答申するということによろしいでしょうか。

それでは、この内容で市長に答申することといたしますので、事務局は答申の準備をお願いします。

議題 4

(鎌田会長)

最後に議題4についてです。こちらにも計画に関する追加資料はありませんので、答申案の議論を行いたいと思います。

事務局から説明をお願いします。

(田村健康福祉政策室長)

(成年後見制度利用促進基本計画 答申書(案)読み上げ))

以上です。御審議のほど、宜しくお願い致します。

(石渡委員)

異論ありません。

(濱田委員)

この計画ができることで、誰が助かるかという後見人です。収入が低い方を積極的に支援できる体制づくりということだと思いますので、これに努めていきたいと思っています。

(鎌田会長)

今日が4つの議題について議論できる最後の機会ですので、皆様ぜひご意見ををお願いします。

(平井委員)

1の「権利擁護支援を必要とする人」はどういった人なのか、成年後見制度を利用したい人はどういった人なのかというのをもう少しはっきりしたら良いのではないかと思います。

(鎌田会長)

成年後見制度は分かりづらい面があると思いますが、最初の部分で「意思決定に支障のある方」という表現があり、権利擁護支援を必要とする人というのはこことイコールと考えていただければと思います。

「権利擁護支援を必要とする人」を「意思決定に支障のある方」とした方がわかりやすいでしょうか。

（平井委員）

意思決定に支障のある方に必要なものは成年後見制度だと思いますが、権利擁護支援というと、より広い表現だと思います。

（鎌田会長）

それでは、「意思決定に支障のある方が成年後見制度を適切に利用できるよう…」と変えた方がよろしいでしょうか。

（平井委員）

その方がわかりやすいかと思いますが、ここに「権利擁護」という表現を入れたのには何か理由があるのでしょうか。

（鎌田会長）

成年後見制度を利用する方というのは、確かに意思決定に支障のある方だけなので、それに絞った方が良いということですね。

「権利擁護」を入れた理由としては、正直申しますと深く考えていなかったのですが、広く捉えた方がよいという考えがあったのだと思います。他の方はいかがでしょうか。

（釜塚委員）

「意思決定に支障のある方」と「権利擁護支援を必要とする」というのは同じような意味ですか。「意思決定に支障のある方」は認知症や障害者の方と思いますが、「権利擁護」となるともっと幅広い意味ですよ。ただ、一般的にはこの言葉はわかりづらいのではないかと思います。もう少しわかりやすい言葉はないでしょうか。

（鎌田会長）

平井委員のご意見を伺うと、その通りだと思います。「意思決定に支障のある方」の方がはっきりわかりやすいかなと思いますが、皆様いかがでしょうか。

（琉委員）

文章をまとめると考えた時、「権利擁護」の方が「意思決定に支障のある方」より幅広い意味なのであれば、幅が広い「権利擁護」の方を上本文に入れ、「意思決定に支障のある方」を1に入れるのはいかがでしょうか。

（鎌田会長）

素晴らしいご意見だと思います。

（佐藤委員）

「権利擁護」という言葉を知らなかったのでスマホで調べたのですが、知的障害・精神障害、認知機能低下などのために自分で判断する能力が不十分であるといった説明があって、最初に認知症高齢者の増加や障害者という言葉があったため、「権利擁護支援を必要とする」という文言が出てきたのだと思います。先ほどの琉委員のご意見に賛成です。

(鎌田会長)

意見等もほぼ出尽くしたようですので、この辺で議題４については審議を終了させて頂いてよろしいでしょうか。

(田村室長)

答申書の御審議ありがとうございました。

それでは私から、確認のため答申書を読み上げさせていただきます。

<答申書を読み上げ>

(鎌田会長)

ただ今事務局が読み上げた内容でよろしいでしょうか。

それでは、この内容で市長に答申することといたしますので、事務局は答申の準備をお願いします。

答申に向けた準備の時間も兼ねまして、休憩の時間を設けたいと思います。午後３時５０分に再開したいと思います。それでは、これより休憩とします。

(鎌田会長)

それでは、会議を再開します。ここからは事務局にて進行をお願いします。

(田村健康福祉政策室長)

これより、６月１日に諮問し、審議いただいてまいりました各計画の策定について、市長へ答申いただきたいと思います。

答申 1

(田村健康福祉政策室長)

それでは、第９期流山市高齢者支援計画の策定について、答申をお願い致します。

<会長が答申書を読み上げ・市長に答申書を手交>

答申 2

(田村健康福祉政策室長)

続きまして、第７期流山市障害福祉計画及び第３期流山市障害児福祉計画の策定について、答申をお願い致します。

<会長が答申書を読み上げ・市長に答申書を手交>

答申 3

(田村健康福祉政策室長)

続きまして、(仮称)流山市重層的支援体制整備事業実施計画の策定について、答申をお願い致します。

<会長が答申書を読み上げ・市長に答申書を手交>

答申 4

(田村健康福祉政策室長)

最後に流山市成年後見制度利用促進基本計画の策定について、答申をお願い致します。

＜会長が答申書を読み上げ・市長に答申書を手交＞

（田村健康福祉政策室長）

市長から、ご挨拶申し上げます。

（井崎市長）

6月1日に諮問をさせていただきました4本の計画について、全5回にわたる審議、また答申書の作成をいただき、ありがとうございました。

流山市は現在も人口が増えております。昨年度までは急ピッチで増加していましたが、今年に入って、緩やかな増加になるかと思いますが、人口自体は増加していきます。今回答申をいただきました計画の対象となる高齢者の方や障害者の方、重層的支援の対象となる方などは今後増えていくことと考えられます。

今回いただきました答申について、内部でも対応策を考え、ご提案いただきました件についてももしっかり取り組んでまいります。今後パブリックコメントを実施し、今年度中に計画として公表します。ご審議の程、誠にありがとうございました。

（田村健康福祉政策室長）

ありがとうございました。

今年度は、高齢者支援計画、障害福祉・障害児福祉計画、重層的支援体制整備事業実施計画、成年後見制度利用促進基本計画と4つの計画について、お忙しい中、ご審議をいただき、本日、答申をいただくことができました。

今後はこの答申を踏まえ、庁内の調整と意思決定、議会への説明等を経た上で、パブリックコメントを行いまして、今年度末までに最終的な計画書を作成してまいります。皆様のご協力に感謝申し上げます。

最後に、鎌田会長から一言お願い致します。

（鎌田会長）

本日、予定どおり市長に4つの答申書をお渡しすることができました。

委員の皆様、事務局の皆様、手話通訳者の皆様に感謝申し上げます。委員の皆様には5回に渡り、のべ10時間以上かけて審議をしていただきました。また、審議の前には、膨大な資料の読み込みをしていただきました。

皆様には、長い時間準備をしていただいたにもかかわらず、発言の機会を逃してしまう状況や、議論の盛り上がりには欠ける場面などがあったのではないかと、反省しております。

今回審議会委員をお辞めになる方もいらっしゃると思います。お立場を欠いても、皆様の高いご見識を持って、今後も福祉行政にご意見を届けてい

ただければと思います。

行政におかれましては、答申書や審議会の中であった各委員のご意見を取り入れて、よりよい計画の策定をしていただければと思います。ご協力いただきありがとうございました。

（田村健康福祉政策室長）

それでは、以上をもちまして、令和5年度第5回流山市福祉施策審議会を終了させていただきます。ありがとうございました。